



元気な！明るい！みんなの！

ノバリアだより

2026
1
VOL.9

新年の挨拶

鳥取県障がい者スポーツ協会 常務理事・事務局長 手嶋 正生



皆様、新年あけましておめでとうございます。日頃より「ノバリア」をご愛顧いただきありがとうございます。本年も皆様の生活の一部として「ノバリア」を活用いただければ嬉しく思います。

まず冒頭に、このたびの島根・鳥取地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い日常を取り戻されますことをお祈り申し上げます。

さて、皆さん方の中には年明けに合わせて「今年こそ運動を始めよう」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実は障がい者スポーツの現場であるノバリアでは、その「今年こそ」が、毎月、そして毎日生まれています。

「できない」から始まる挑戦が「できた！」という笑顔に変わる瞬間。「少し不安げな表情」から「満面の笑み」に変わる瞬間。そんな場面に立ち会えることが、私たちノバリアスタッフにとって何よりの喜びなのです。「ノバリア」では、そんな場面に巡り合うための研修会や体験会、そして28の教室を企画し皆さんの参加を心待ちにしております。本年も利用者の皆さん、支える指導者・ボランティアの皆さん、そして応援して下さるすべての方々とともに、少し汗をかき、たくさん笑い時には真剣に悩みながら、前に進んでいきたいと思っております。

スポーツは特別な人のものではありません。そして挑戦に「年齢制限」も「正解」もありません。本年が皆さまにとって笑顔と挑戦に満ちた一年となりますように。



～ ノバリアからのお知らせ ～

ニュースポーツ紹介

スカットボール



スカットボールは日本で開発されたニュースポーツです。専用のボード上に配置された複数のホールに向かってボールを転がし、得点を競います。

走ったり跳んだりする動作が不要なので、年齢や体力差に関係なく誰でも安全に楽しむことができます。

ボールの強さや方向を調整することで集中力や判断力が養われます。高齢者や障がいのある人、車いす利用者も同じ条件で参加できることから、生涯スポーツや共生社会を支えるスポーツとして注目されています。

スカットボール用具



ノバリアカフェ

日時

令和8年2月12日(木)かめのパン屋さん来館
13時30分～14時30分
令和8年2月26日(木)まめまきします！
10時30分～11時30分



育休復帰職員

令和8年1月より復帰しました。

下雅意 朱子（しもが いあかね）です。

1年ぶりでわからないことも多くありますが頑張りますのでよろしくお願ひします。



↓ 続きは裏面へ ↓

鳥取ユニバーサルスポーツセンターノバリア

発行者：一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会

〒680-0944

鳥取市布勢146-1 布勢総合運動公園内

TEL：0857-50-1091

FAX：0857-50-1092

E-mail：tottori-novaria@ts-sawayaka.jp

ホームページ：https://ts-sawayaka.jp/

ノバリア公式LINEはこちら



左記QRコードから追加すると次の機能が利用できます。

- ① イベント情報の閲覧
- ② 施設利用状況の閲覧
- ③ スポーツ教室の欠席連絡

@038jmays

鳥取県パラスポーツ指導者スキルアップ講習会 スポーツFUNネット公認研修会

パラスポーツ指導者スキルアップ講習会とは...

パラスポーツの導入に必要な知識と技術を再習得し、パラスポーツ活動を支える人材のスキルアップの場として実施するものです。この講習会をきっかけにして、パラスポーツ指導者の活動機会がさらに拡大し、地域へ広がっていくことをねらいとしています。

障がいのある人と共にスポーツを楽しみ、「障がい者スポーツを始める・続けること」を支援する人材が年々増えていることは大変に喜ばしいことです。県内各地に障がい者スポーツが広がり、実施率が50%を超える日がやってくるよう努めていきます。

障がいのある人と一緒にスポーツを楽しむために

前半



佐々木 ゆみ氏

東京都障害者スポーツ協会
スポーツ振興局事業推進課 課長



義足体験



障がいの基礎的な理解やパラスポーツの意義・現状について講義を行っていただきました。障害に対する正しい知識や、多様な立場を理解することの大切さについて学ぶ機会となりました。

講義の最後には、参加者全員が義足を実際に装着する体験会を実施し、身体にかかる負担や動きづらさを体感することで、障がいへの理解をより深めることができました。

ロービジョン・ブラインドサッカーについて

後半

ロービジョンフットサルとブラインドサッカーの違いについて説明があり、競技特性に応じて必要となる配慮について学びました。あわせて、障がい当事者の立場から、競技に取り組む思いや日常生活での工夫、望ましい支援の在り方について、実体験を交えたお話をしていただきました。講演の途中では、もともとは視力があったものの、25歳以降に視覚障がいを負ったご自身の経験をストーリーテリングとして語られ、その率直で力強い言葉は参加者に大きな感動を与えました。

体験では、視野が制限されるゴーグルを装着し、視覚障がい者体験を行いました。参加者からは、普段何気なく行っている動作の難しさを実感したという声が多く聞かれ、障がいへの理解と配慮の重要性を改めて認識する機会となりました。

参加者と集合 写真



岩田 朋之氏

ロービジョンサッカー 日本代表選手

